

床掘勾配及び余裕幅について

床掘勾配及び余裕幅については、以下のおとりとします。

1. 適用開始時期

令和2年11月単価を採用する工事から採用

2. 床掘勾配

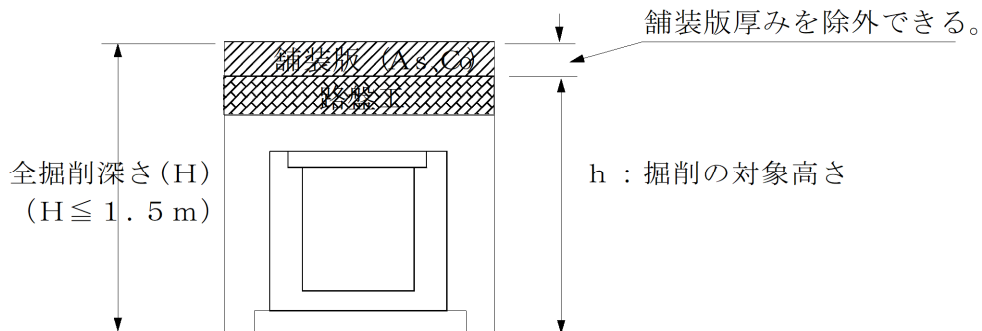
床掘断面の掘削法勾配は、下表を標準とする。

土質区分	掘削面の高さ(深さ)	床掘勾配	小段の幅
粘性土・砂質土 レキ質土・岩塊玉石	1 m未満	直	—
	1 m以上5 m未満	1 : 0.5	—
	全掘削高5 m以上	1 : 0.6	下からH=5 m毎に1 m
砂・シルト質土	5 m未満	1 : 1.5	—
	全掘削高5 m以上	1 : 1.5	下からH=5 m毎に2 m
軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1 m未満	直	—
	1 m以上5 m未満	1 : 0.3	—
	全掘削高5 m以上	1 : 0.3	下からH=5 m毎に1 m
中硬岩・硬岩	5 m未満	直	—
	全掘削高5 m以上	1 : 0.3	下からH=5 m毎に1 m
発破などにより崩壊しやす い状態になっている地山	2 m未満	1 : 1.0	下からH=2 m毎に2 m

注) 現地の状況等により、上記によりがたい場合は、労働安全衛生規則等検討し決定すること。特に切土部に設けるブロック積み、もたれ擁壁等については、山の状態をよく把握し決定すること。

<参考：舗装厚みを除外できる場合>

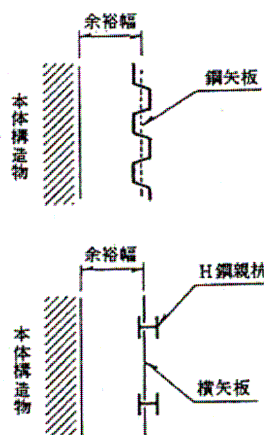
下水道やCCBOX、情報ボックス、道路排水構造物等、日々復旧を行う場合の床掘勾配の決定するための掘削の対象高さは、舗装版の下面を床掘基面として決定してよい。全掘削高さ(H)が1.5 mを超える場合は別途考慮すること。



3. 床掘の余裕幅

一般的な床掘における余裕幅は次表のとおりとする。

種別	足場工の有無	余裕幅
オープン掘削	足場工なし	50 cm
	足場工あり ()内は、フーチング高さ2 m未満でフーチング上に場を設置する場合	170 cm (50 cm)
土留掘削	足場工なし ()内は、プレキャスト構造物自立型土留めの場合	100 cm (70 cm)
	足場工あり ()内はフーチング高さ2 m満でフーチング上に場を設置する場合	220 cm (100 cm)



- 注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。
 2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。
 3. 足場工が必要な場合とは、H = 2 m以上の構造物。
 4. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。
 5. 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。

<参考：プレキャスト製品等の場合>

プレキャスト製品等型枠を必要としない小構造物を設置する場合
 但し、砂及びシルト質地盤は除く。

掘削の高さ (深さ)	床掘の余裕幅
1 m未満	構造物端から30 cmとすることができる

4. その他

本内容は、岡山市本庁舎 2 階 文書管理公開課にて公表しています「令和 2 年 岡山市 土木工事標準積算基準書 参考資料【工事・委託】」に記載します。

担当課 財政局財務部監理検査課 (技術監理担当)
 TEL086-803-1368